

連載第15回

還暦を迎えて……



姫路市 大多和 清子

還暦

60年で再び生まれた年の干支に還るからいう。数え年61歳の称・甲・本卦還。

広辞苑より

昔、還暦を迎えた人は、いかにもお年寄りという感じがしていました。
しかし、現在の60歳は精神的、肉体的にも10歳以上は若く、とても還暦には見えません。

2013年に届いた年賀状には「今年、還暦ですね。」と同級生から
「えっ！」と思いました。私の誕生日は弥生なので、お正月にはまだ58歳だったのでピンとこなかったのです。

2014年に届いた年賀状には「今年から年金を受給できるようになりました」と書かれていました。そのとき私は59歳だったのです。早生まれという中途半端なときに生を受けたことを実感しました。

同窓会の案内

2013年秋、1枚のファックスが届きました。
小学校の同窓会の案内でした。還暦を記念して開くという趣旨が書かれていました。

差出人は女子の幹事I子ちゃんでした。彼女の思いが綴られていました。

私が病気だということは風の噂で知っているそうです。しかし、どんな病気かは知らないのでしょう。ぜひ私と話がしたいと書かれていました。

夫も私も驚きました。人工呼吸器を着けている私には、しゃべることができないのです。

しばらく考え込みました。

夫は「もうそろそろ公表してもいいと思うよ。」と言ってくれました。
今までは、ごく限られた友人にしかALSだということを伝えていませんでした。どこか心の中に隠しておきたい
という思いがあったのです。

公表しようと決めました。

Ⅰ 子ちゃんへの返事を書きました。
私がALSという病気だということ。そして人工呼吸器を着けて、しゃべることができない。身体の自由を奪われ、唯一動かすことができるのは左手親指だけ。その親指で「レッツチャット」という意思伝達装置を使って意思の疎通を図っている。

夫は、昼間仕事なので、その間、訪問看護師さん・ヘルパーさんの支えで在宅生活をしていると、
同窓会は欠席するということ 最後に「みんなによろしくお伝えください」と綴りました。



薄紅色のモクレン、今年も咲きました

(これでよかった) と少しホッと、安堵感を覚えました。

I子ちゃんからファックスが届きました。
「大変な病気だと知り驚いています」「知らないとはいえ失礼なことを ごめんなさい」

要約するとこのようなことが書かれていました。

そして「同窓会のもようを伝えますね」と 。

私の「いま」を知り驚いたのは無理もないことでしょう。

もし反対の立場だったらどのような言葉を たぶん戸惑うでしょう。

I子ちゃんからメールが届いたのはちょうど同窓会から1週間後の日曜日でした。

開けてみると、色紙2枚・写真は数枚、そしてI子ちゃんからの手紙が入っていました。

懐かしい写真。セピア色の幼稚園のころの集合写真、小学校の人文字を描いた航空写真。そして、今回の同窓会の写真。

I子ちゃんが前列右から ちゃん 順に説明 写真とにらめっこ 。しかし、不思議なことに誰一人思い出せない。脳裏に浮かんだのは約50年前の幼いみんなの顔です。

家の近くに住んでいたY子ちゃんとKちゃんとは、よく遊び社会人になってからも、よく会っていました。私がALSを発症する2年前に神戸で会ったのが最後でした。

それなのに分らなかったのです。わずか十数年会わなかっただけで 。でも一番変わったのは私だと思います。

みんなからのメッセージ

色紙には一人一人のメッセージが書かれていました。

やはり、いきなりALSと言われても戸惑いは隠せないようです。

自分の近況などが書かれていました。

中には、小学校の校門を入ったところの情景がまるでその頃に戻ったかのよう

な圧巻の文章を書いてくれた人も。
幼なじみのY子ちゃんのメッセージは「清ちゃんたちとタイムカプセルを埋めたこと覚えていますか？」。覚えてるよ！と叫びたいくらい。

あれは5、6年生の夏休みだったと思います。近所の子どもたち4、5人でタイムカプセルを埋めに行きました。空き缶に自分の好きなものなどを入れました。私はビー玉やおはじきなどを入れたような気がします。

穴を掘った中にフタをした長方形の缶をそのまま入れたのです。ビニール袋に入れることもなく約50年の歳月がどのようにになっているのか予想がつかます。たぶんすべて朽ち果てているでしょう。ビー玉などは残っているかも知れません。

どこに埋めたかは、私は知っていますがその後行ったことはありません。

ほかの人は多分覚えていないと思います。

あのとき、約束していれば。10年後とか。
私がこんな身体でなければY子ちゃんを誘ってタイムカプセルを探しに行ったと思います。

時間旅行

幼いころは時間がゆっくり流れていたような気がします。

春

入学式、新学年を迎える日は校庭の桜は満開。
家の近くのお地蔵さんの庭にある大きな桜の木も満開。幼心にも桜にウキウキしたものだ。

夏

学校からの帰り道、突然の雨に頭を両手でかばい懸命に駆け出した。
しばらくすると、にわか雨が上がり土から湯気がでてきた。「土が燃ゆる」そして「土の匂い」がした。

待ちに待った夏休み。
先生たちは「朝の涼しいうちに勉強しなさい」と言うけれど。あちこちから蝉の大会唱。いてもたってもいられず、アミと虫カゴを

持って外に飛び出した。

すでに近所の子らが松の木の下に集まっていた。
どの木に、どんな種類の蝉がいるのか知っていた。お地蔵さんの大きな桜の木には、ひと際大きな大合唱が。でも、なかなか採れずイライラしたものだった。

お昼ご飯は決まって、お素麺だった。もぎたてのきゅうりやトマトと一緒に食べた。デザー
ートはスイカ。毎日、畑でできたものを食べていた。

文句一つも言わず。おなか一杯になるとお昼寝。
どこからか鐘の音が聞こえてくる。自転車の荷台にアイスクャンデーをのせたおじさんが、
たまにやってくる。

母にもらった5円玉を握りしめ、駆け出した。「おっちゃん1本ちょうだい」

秋

1964年10月10日東京オリンピック開催。
体育の時間はテレビでオリンピックを観ていた。日本中がオリンピックに沸いた。

運動会は三波春夫さんの「五輪音頭」を踊った。私は10歳だった。

冬

[子どもは風の子]

北風が吹いても外でおしくらまんじゅう。
男の子の遊びばかりしていた。メンコは長方形の「鉄人28号」がお気に入り。なにしろ強かった。その後、円形のメンコが表れた。薄くて小さいのは勝てたが一回り大きいのを負かすために、あの手この手と試し勝ったときの喜びは、大きかった。コマ回しは、みんな上手だった。

手のひらに乗せるのも、お手のものだった。

幼稚園から小学校6年生までの思い出は決して色あせることなく鮮明に記憶の中にあります。そして、束の間の時間旅行ができたのも「子ちゃんのおかげだ」と思います。

感謝。

還暦を迎えて……

還暦を迎えたその日。
いつもの誕生日と何ら変わりませんでした。 お花やバースデーカードを。

息子たちからパジャマやCDを

還暦を迎えた実感はなく、心はいつまでも若いと思っているからかも知れません。

還暦は人生の通過点かも知れません。しかし、節目だとも思います。

これからも前向きに1日1日を大切に生きていきます。



弥生の花たち、スイートピーがかわいい！

息子たちからのプレゼント